

神戸市内の都市公園でトモンハナバチを目撃

吉田浩史

はじめに

トモンハナバチは、膜翅目ハキリバチ科（ミツバチ科とする意見もある）に属するハナバチの一種である。神戸市では2015年版のレッドデータにおいて要調査に選定されている（神戸市, 2015）が、市内における具体的な採集記録はないようである。筆者は本種を神戸市内の都市公園内で目撃したので、ここに報告する。

生態等

日本（本州・四国）、朝鮮半島及び中国からヨーロッパに分布する（多々内・村尾, 2014）。本州では青森県から岡山県までの本州各地で局所的に発見されており（松村, 2008）、一般的に稀とされているが、関西地方では低地において、関東地方では山梨県及び長野県の山間部において比較的普通にみられる（中村, 2003; 上森, 2017）。成虫は7～9月に出現し、ハギ等のマメ科の他、ミソハギ、ニンジンボク、ネジバナを訪花する。竹筒やヨシの筒に営巣し、ヨモギなどの綿毛を抱えて巣に戻り、それで育房を作る（多々内・村尾, 2014; 京都府, 2015, 上森, 2017）。

未発表であるが、筆者は近隣の大阪府において、大阪市の長居植物園及び高槻市の淀川河川敷草地において多数の個体を目撃している。また京都府では、京都市や八幡市の河川敷・公園で比較的多くの個体が見られることが明らかになった（京都府, 2015）。

一方、兵庫県からの記録はほとんどなく、確実なものの上森（2017）による尼崎市からの記録のみと思われる。今回、神戸市の目撃記録に加え、筆者が以前採集していた標本の記録も合わせて報告しておく。

データ

トモンハナバチ *Anthidium septemspinosum* Lepeletier, 1841
1 ♀（目撃）、神戸市灘区六甲町、六甲風の郷公園、35m, 24. VII. 2019, 吉田浩史; 1 ♀、たつの市今市、揖保川河川敷、10m, 11. VIII. 2007, 吉田浩史。

発見場所は、神戸市では都市部の公園であったが、捕虫網を持っていなかったため採集は出来なかった。植栽のローズマリーの花の周辺を飛んでいた（写真）が、訪花は確認していない。また、営巣場所も不明である。

たつの市の確認場所は河川敷草地であった。



トモンハナバチを目撃した公園の植栽周辺。

○参考文献

- 神戸市, 2015. 神戸の希少な野生動植物—神戸版レッドデータ 2015 — (<http://www.city.kobe.lg.jp/life/recycle/biodiversity/rd/img/rdb2015.pdf>).
- 京都府, 2015. 京都府レッドデータブック 2015. 京都府環境部自然環境保全課 (<http://www.pref.kyoto.jp/kankyo/rdb/index.html>).
- 松村雄, 2008. トモンハナバチの巣場所探索と保全. 昆虫と自然, 43(9): 39-43.
- 中村和夫 2003. ハチ目 Hymenoptera (アリ科を除く). とちぎの昆虫 I. (栃木県自然環境基礎調査) 栃木県, 249-336.
- 多々内修・村尾竜起, 2014. 日本産ハナバチ図鑑. 479pp. 文一総合出版.
- 上森教慈, 2017. 兵庫県尼崎市の都市公園におけるハチ相. きべりはむし, 40(1): 4-8

(Hiroshi YOSHIDA 神戸市東灘区)

加東市でトゲアリを確認

柴田 剛

加東市の「やしろの森公園」で昆虫と植物の写真撮影をしていたところ、トゲアリ *Polyrhachis lamellidens* Smith, 1874 を撮影するとともに、採集することができたので報告する。

本種は、クロオオアリやムネアカオオアリの巣を乗っ取って寄生する社会寄生性のアリで、寄主アリの豊富な広い生息環境と湿った森林環境が必要であり、そのような環境が縮小悪化しているとして国のレッドデータブックで「絶滅危惧Ⅱ類」になっている。最初に写真撮影したときにはレッドデータブックの対象種になっていることに気づかず採集はしていなかったが、その後何度か現地を訪れ、写真撮影した場所から少し離れたところでもうやく採集することができた。